

会 報

# 鳥 取

第 12 号

2005年 1月



明地峠より雲海を臨む

目	年頭のあいさつ	2~3	シルバー人材センターの統合と 広域化による事業運営について	12
	各シルバー人材センター理事長の抱負	4~6	シルバー人材センターの紹介	13~14
次	臨時理事会の開催・事業の実施状況	7~8	平成16年度鳥取県内シルバー 人材センター統・広域化の動き	15
	平成16年度シニアワーク プログラム事業の実施状況	9	会員の広場	16~17
	健康シリーズ⑫	10~11	講習会に参加して	17~19

社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会

# 年頭のご挨拶



(社)鳥取県シルバー人材センター連合会

会長 川口 貞良

新年あけましておめでとうございます。

会員シルバー人材センターの皆様をはじめ関係者の皆様には、さわやかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中はシルバー人材センターの方々、又関係機関の方々から格別のご支援とご協力をいただきました事を深く感謝申し上げます。

さて、最近の経済動向は緩やかに改善しているとはいえ、失業率は依然高い水準で推移し、厳しい経済情勢、雇用情勢が続いております。

このような厳しい情勢の中でシルバー人材センター事業は順調な発展を続けており、県下のシルバー人材センターは、市町村合併に

伴って統合、編入等が図られ昨年度末より五

センター減り二十センターとなりましたが、十六年度上期の対前年比は受注件数六・八%増、契約金額は一・七%増となり、連合会発足以来年々順調な伸びを示しております。

これもひとえに、各シルバー人材センターの役員並びに会員の皆様のご努力と、関係行政機関並びに関係団体の深いご理解とご協力の賜であり、心から敬意を表する次第であります。

少子高齢化が進む中で、シルバー人材センターの役割はますます重要となり、今後二〇〇七年から二〇〇九年にかけて、いわゆる団塊の世代が六十歳に達することからその受け

入れ体制を整えるとともに、高齢者の多様なニーズに応じた就業機会の確保、社会参加活動等、高齢者の総合的な就業対策・生きがい対策に一層努力して参りたいと思っております。

最後にシルバー人材センターのさらなる発展と、その事業に携わっておられる皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。



# 新年のご挨拶



鳥取労働局職業安定部職業対策課長

阪上仁史

新年あけましておめでとうございます。

シルバー人材センター関係者の皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本県の生産年齢人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によりますと、二千年には三十八万四千人だった六十四歳までの生産年齢人口が二千十五年には、三十四万七千人と三万七千人も減少することとなり、ちょうど境港市の人口に匹敵するに等しい状況となります。また、高齢人口の割合を上記同年で見ますと、それぞれ二十二・〇%、二十七・八%と全国で十八番目に高齢人口の割合が高い県となります。

こうした中で、技能・知識を持った就業意

欲の高い高年齢者の方々が社会の支え手として活躍の場を求め、シルバー人材センター事業に参画されることが見込まれており、地域社会の活性化や地域社会への貢献に大きな期待がかかるところであります。

一方、市町村合併による組織運営や行財政改革などシルバー人材センターを取り巻く環境は大きく変化しております。しかし、現状にとどまることなく、会員の技術向上などの基盤強化を始め、常に創意工夫されながら改革への努力に心がけていただければ、より深く地域社会に密着したものになると考えられます。



景気の足取りがしつかりしない中においてもシルバー人材センター事業の実績は着実に成果を上げておられます。これもひとえに、関係各位のご尽力と熱意の賜と心から敬意を表する次第であります。

終わりに、各シルバー人材センターの益々のご発展と今後の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

# シルバー人材センター 理事長の抱負



（鳥取市シルバー人材センター）  
理事長 歳岡輝巳

シルバー会員は「自主・自立・共働・共助」の理念をもとに方向性は一致しております。組織の中で理事会はセンターの要となる機関であり、その活動如何がセンター発展に大きく影響し、とりわけ会員が活動する場合先ず最高の執行機関である、理事会の強力な活性化が要求される。



（米子広域シルバー人材センター）  
理事長 宇野治巳

新年明けましておめでとうございます。皆様の暖かいご支援によりまして、順調に事業運営が行われていますことを心からお礼申し上げます。

これからのシルバー事業は、地域高齢者の多様なニーズに 대응することができるよう、更に幅広い就業メニューを整備し、一層自主的・自立的な取り組みを推進することが求められています。

会員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。



（倉吉市シルバー人材センター）  
理事長 野島 完

明けましておめでとうございます。

本センターは、会員の連帯共助とコミュニケーションを図り、センターが会員皆さまの心よりどころとなるよう、目標を掲げていきます。

県連合会の益々の発展を祈念します。



（境港市シルバー人材センター）  
理事長 足立郁馬

「一年のまた始まりし あれやこれ」……旧年の世相「災」は御免蒙りたいが、激動の年となる予感がしてならない。



（南部広域シルバー人材センター）  
理事長 中川正昭

歳、四分の三世紀。老の坂を下りつつもシルバーパワーを浴び、足腰を労り、ボケを封じ、健康に留意、センター躍進に尽くしたい。

昨年八月溝口町区域を編入し四町区域として一回り大きく成長しました。そして町合併により十月南部町、元旦伯耆町が誕生し二町広域に衣替えしました。活力ある地域社会と生き甲斐づくりのため、頑張つてまいります。



（智頭町シルバー人材センター）  
理事長 石谷文一

過疎化が急速に進行するわが町にあつて、安定した業績を維持するためには、地域社会のニーズと会員の英知を集約し、斬新な企画をもって独自事業を開拓することこそ第一と心得て、より一層努力することを心に誓つていきます。



（社）岩美町シルバー人材センター

理事長 太田弘道

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり会員の皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。

（社）岩美町シルバー人材センターは、平成九年七月に設立され、平成十四年十一月社団法人に許可されました。発足以来足掛け九年、法人化四年目に入ります。

高齢化社会のニーズに応えるべく、事業運営の向上に取り組みなければと決意を新たに初春を迎えました。



（社）湯梨浜町シルバー人材センター

理事長 磯江末夫

昨年十月一日、泊、東郷、羽合の三町村が合併し、湯梨浜町として発足、シルバー人材センターも、未結成の泊地区に組織を結成し全町民の期待に応える、シルバー人材センターになるよう、全役員員頑張る年にしたい。



（社）琴浦町シルバー人材センター

理事長 足立慎夫

この度、行政の合併に伴い琴浦町シルバー人材センターが設立されました。今後、まずまず会員の就業の機会確保に努め、自信と誇りをもって社会参加をすることで、活力ある地域社会の推進に寄与したい。



淀江町シルバー人材センター

理事長 高野邦親

恒例のシルバー人材センターの全体研修会が先日開かれました。

集まる会員は七十五名に及び合併に伴う協議項目が常務より報告された。

会員は、例年どおりの活動報告（体験発表）を行った。

耳にした私は、合併後も安心であると会員に期待している。



中山町シルバー人材センター

理事長 明里好弘

中山町シルバー人材センターを設立して二年目となる今年四月に、大山町・名和町と合併して、社団法人大山町シルバー人材センターとしてスタートします。

会員数も二百名前後となる予定です。まずまず地域に信頼され、地域に愛されるシルバー人材センターであるよう努めてまいります。



郡家町シルバー人材センター

理事長 村田敏雄

郡家町シルバー人材センターは、平成五年発足以来、実績も今日まで緩やかな伸びを示し、地元の皆さんより大変喜ばれている現状です。

また、来年三月には合併をひかえており、シルバー人材センター拡大に一層の努力と基盤の整備充実を図り、より良いものになしたいと願っております。



江府町シルバー  
人材センター  
理事長 仲嶋勝利

景気の低迷で仕事の発注が少なくて会員の希望に副い得ない現状が大きな課題となっております。加えて現在の事務所が十二月をもって閉鎖、他へ移転することになりました。現事務所は介護老人保健施設が建設されることになりました。新事務所は町に於いて目下検討中であり改めてご挨拶を申し上げます。



日野町シルバー  
人材センター  
副理事長 牧 智也

会員の高齢化が顕著です。最近では新会員の加入促進に力点をおいてきました。本年も継続します。次に、現業職の方と共生のできる仕事分野の開拓と進出を考えて居ます。



日南町シルバー  
人材センター  
理事長 青戸建二郎

新年を迎え会員皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます。

日南町シルバー人材センターは、平成十二年に発足以来、五年を迎えることになりました。会員数、受注件数、請負金額共に順調に増加しております。

しかし、会員の就業率のアップ等、職場の開拓も図る必要があります。今後の発展のために微力ながら、努力を重ねたいと思っております。



名和町シルバー  
人材センター  
理事長 林原彦一

会員の皆様あけましておめでとう御座います。

当センターは発足三年半程ですが、町民の皆様理解され頼りにされる様になりました。今年安全を最優先に更なる浸透を図り地域に密着したセンターとして地道に歩みたいと思っております。



三朝町シルバー  
人材センター  
理事長 西村武津美

シルバー人材センターを発足させ高齢者の生き甲斐として持てる技術を使う事で社会の為に成る思い又生産出来る事で収入にも成る、多くの仲間にも出会う事もある仲間は大切であります多くの仲間を作りたいと思っております。



あけましておめでとうございます。  
県シルバー連合会のスタッフ一同です。  
今年もよろしくお願ひ申し上げます。

## 臨時理事会の開催

平成十六年度第一回の臨時理事会を倉吉市のシティホテルに開催いたしました。

全理事の出席のもと、シルバーの統合、合併に伴う新規会員加入承認と協議事項として市町村合併に伴うシルバーの広域化及び統合について、また当面の連合会の事業、経過報告等が協議されました。

## 事業の実施状況

### 平成十六年度無料職業紹介事業 労働者派遣事業担当者会議開催

平成十六年八月二十七日倉吉市シティホテルにおいて無料職業紹介事業及び今年度から発足する一般労働者派遣事業についての担当者会議を開催しました。

拠点センターから八名、連合会から四名また鳥取労働局から職業安定課の津村光明職業指導係長を招き、平成十五年度の無料職業紹介の実施状況や今後の実施について意見交換を行い、一般労働者派遣事業導入について津村係長の説明を受けました。

### 中国ブロックシルバー人材センター 連合役員交流研修会開催

中国地区各県からシルバー人材センターの職員が米子ワシントンホテルプラザに集まり研修会を開催しました。

総勢百四十四名の参集の中、来賓として鳥取労働局職業安定部職業対策課長 阪上仁史様又鳥取県西部総合事務所から県民局長 大西喜久子様をお迎えして祝辞をいただき、(株)



### 中国ブロックシルバー人材センター 連合役員交流研修会開催

平成十六年十一月二十五日(木)・二十六日(金)の二日間、中国五県のシルバー人材センター役員二百六十名余りが、米子ワシントンホテルプラザに集まり研修会を開催しました。

来賓として、鳥取労働局職業安定部長 高長信一様、鳥取県商工労働部長 山本光範様

全国シルバー人材センター事業協会研修課長の木村 達様に「高齢化社会と期待されるシルバー事業」と題して講演をいただき、その後各県代表による事例発表があり、二日目は前日の事例発表に基づく意見交換を五つの分科会に別れて行い、テーマは次の五項目でした。

- ① 高齢者活用子育て支援事業の取り組みについて(広島県府中町シルバー人材センター)
- ② 入会説明会・理念講習における会員の初期研修について(鳥根県松江市シルバー人材センター)
- ③ 独自事業の取り組みについて(岡山県総社市シルバー人材センター)
- ④ 安全と就業(山口県下松市シルバー人材センター)
- ⑤ 理念に沿った事業運営と適正就業(鳥取県米子広域シルバー人材センター)



又地元米子市長 野坂康夫様のご臨席をいただき丁寧なご祝辞をいただきました。

講師に滋賀文化短期大学の臼井 瑛講師を招き、「広域シルバー人材センターの今後のあり方」について講演をいただき、又社会福祉法人島根県済生会江津総合病院の堀江 裕院長に「言葉の力について」と題して講演をいただきました。

二日目は、各県の代表による事例発表をいただき盛会のうちに閉会となりました。

## 「いきいき健康福祉まつり」への参加

毎年実施している、シルバー事業の普及啓発を目的に鳥取県社会福祉協議会主催の「いきいき健康福祉まつり」に参加し、地域住民に対してリーフレットやポケットティッシュ、風船を配付してシルバー事業のPRを行いました。

今年度は、東部地区で十二月四日と五日の



二日間鳥取市の県立福祉人材研修センターで実施いたしました。大勢の住民とのふれあいが出来、有意義なイベントとなりました。

## 鳥取県シルバー人材センター事業のテレビ中継会議開催

平成十六年十二月二十二日(水)午前十時から鳥取県庁・中部総合事務所・西部総合事務所を結んだ鳥取県テレビ会議システムにより、三ヶ所から鳥取県シルバー人材センター事業の発展を目指してテレビ中継による会議を開催しました。

出席者は、国側から鳥取労働局小川高齢者対策担当官、県側から米田労働雇用課長、中西雇用政策室長以下一名、又鳥取県シルバー人材センター連合会から会長を始め理事を中心として十二名が出席し、連合会から事業の実施状況、シルバー人材センターの統合・広域化について説明し、県側から透明性の確保・適正な運営についての説明があり、その後、国・県に対する要望なり、意見交換を行いました。





# 平成16年度シニアワークプログラム事業の実施状況

シニアワークプログラム事業は、厚生労働省の委託を受け、働く意欲のある高齢者の雇用・就業機会の確保を促進することを目的として、高齢求職者等を対象に実施します。

平成16年度の第1種講習は技能講習11回、介護講習では3級課程4回、2級課程2回の実施を計画し、順次実施しています。

## 技能講習第1種

講習名	実施地区	講習日程	講習日数	申込者	受講者	修了者
観光ガイド養成	倉吉会場	06.16～06.24	7日	20名	19名	14名
パソコン（初級）	米子会場	06.21～06.25	5日	32名	22名	21名
パソコン（中級）	倉吉会場	07.01～07.09	7日	28名	20名	19名
パソコン（初級）	境港会場	08.02～08.06	5日	23名	21名	21名
パソコン（実務）	鳥取会場	09.13～09.17	5日	34名	20名	19名
植栽管理	米子会場	09.30～10.08	7日	30名	25名	25名
塗装	倉吉会場	10.18～10.22	5日	17名	17名	15名
オフィスクリーニング	米子会場	10.25～10.29	5日	18名	16名	14名
接客サービス	鳥取会場	11.15～11.19	5日	25名	24名	17名
パソコン（中級）	鳥取会場	12.01～12.09	7日	24名	20名	20名
接客サービス	米子会場	01.24～01.28	5日	名	名	名

## 介護講習第1種「3級課程」

講習名	実施地区	講習日程	講習日数	申込者	受講者	修了者
訪問介護員養成講座	米子会場	07.07～07.27	10日	35名	20名	20名
訪問介護員養成講座	鳥取会場	07.14～08.03	10日	24名	20名	19名
訪問介護員養成講座	倉吉会場	08.24～09.10	10日	21名	20名	18名
訪問介護員養成講座	境港会場	09.29～10.19	10日	14名	14名	12名

## 介護講習第1種「2級課程」

講習名	実施地区	講習日程	講習日数	申込者	受講者	修了者
訪問介護員養成講座	鳥取会場	10.06～11.12	20日	23名	20名	20名
訪問介護員養成講座	米子会場	11.05～12.14	20日	22名	20名	19名



健康シリーズ⑫

中高年のメンタルヘルス



山陰労災病院診療科精神科

高須 淳司

なんて言っと、「精神の病気は『精神病』とい  
うので、一つしかないんじゃないの」と怪訝  
に思われる方もあるかもしれません。いえ、  
そうではなくて、色々の病気が報告されてい  
て、今回は、特に中高年に多いといわれる、  
うつ病についてご紹介したいと思います。

うつ病の歴史、症状

うつ病という病気がある、ということが、  
ようやく学問の世界で認められたのは、今か  
ら一〇〇年くらい前のことです。内科や外科  
の病気の名前は、紀元前のギリシャの頃から  
あったものもありますので、それと比べると、  
うつ病は由緒正しい病気の名前と言ったこと  
ではないようです。決して、うつ病が昔は発生  
しなかった、ということではありません。現  
在のようなとらえ方ではなかった、という意  
味です。

最近、うつ病について、世界各国で研究が  
進み、まだ究極的な原因はわかっていません  
が、色々な薬が開発されて、効果があること  
が確認されています。

つまりうつ病は「こころ」の病、とはい  
うものの、「こころ」だけの病気だけではなく

て、「こころ」と「からだ」の両方にまたが  
る病気であるということ。身体自律神  
経系統にはたらく薬がとても有効であるとい  
うことが、一つの証明になっています。

うつ病になると、悲しい、さびしい、とい  
うある種の気分の変調が、一定期間つづく、  
といったかたちで発生しますが、「誰々のこ  
とが気になって悲しい」とか、「これこれの  
出来事があったてさびしい」とか、患者さん自  
身が説明できないというのが特徴です。これ  
を「理由のない抑うつ」といいます。

また、物事をしないといけない、と思いな  
がら、億劫でできない、からだがついてこ  
ない、と言つ症状も起ります。さらに口が渴  
いたり、大便が出にくくなったり、夜が眠れ  
ない、といった、自律神経系統の症状がたい  
てい一緒に出ます。(表)

うつ病の治療、養生の要点

早めに病院に来ていただくのが良い、これ  
は他の多くの病気の場合と同じです。最近、  
うつ病の薬、いわゆる「抗うつ薬」の進歩は  
めざましく、服用していただくことにより、  
快方に向かい、症状はやがて消えてしまいま

精神科というと、世間一般的にと申しま  
すか、病院の中でも、わけのわからない科だ  
と思われているようです。その精神科がさら  
に細かい分野に分かれていて、その中に「ライ  
フサイクル論」がある、なんて言ったら、ま  
すますわからないと思われるかもしれません。  
これは、人間の精神発達について理屈っぽ  
く考える立場なわけですが、フロイトとい  
う学者が幼児、思春期に焦点を当ててまとめた業  
績が有名です。ただ、中年、高年といった年  
代は学問的にもあまり注目されてこなかった  
のが実状です。しかし、昨今、全国どこでも  
病院や診療所を訪ねられて、こころの相談を  
される中高年の方は増えていると聞きます。  
また、精神科の病気にも種類があつて、な

す。決して「なまけ」ではないか、とか「さぼり」ではないか、とか考えないで、病院に来て下さることが大事です。

療養中の注意点、また、病気の予防にも役立つような、昔の言葉でいうと「養生」のための配慮についても、いくつか述べたいと思います。先にいいましたように、うつ病の最終的な原因はまだわかっていませんが、「働きすぎ」「がんばりすぎ」「無理が重なり」心身の疲労がつづいて、それが病気の引き金になるということが以前から言われています。

日本や、ヨーロッパだとドイツあたりでは、国民性として、「勤勉」、「真面目」、「人に配慮する」ことが重んじられていることが指摘されています。中高年になると、ますますその傾向が強まる、と言われ、「勤勉」など、元来決して欠点とはいえない要素がかえってマイナスに働くときがあり、つい「無理が重なり」病気の発症につながると言われます。がんばりすぎないことが大事といわれています。業績や能率を一部捨てても、「ゆとり」を得ることが必要ということだと思います。

回復の途中には、まず、大まかなことから始め（散歩など）、次に細かいことに進み（手作業など）、なじみの人とふれあうように

し、あまり知らない人との複雑な対応はできれば先に取っておきたいものです。休息からいきなり長時間の仕事に向かうことは良くありません。ただ、休息が長引くと、かえっていらいらがつのることもあります。（出番の少ないプロのスポーツ選手のように、力をもてあます感じになると思われます）。うつ病は必ず良くなる病気です。特別な病気と思わないで、気軽に相談に来て下さると良いと思います。

身体面の訴え	精神面の訴え
睡眠障害	ゆううつな気分
食欲不振	億劫感
その他の自律神経症状 (口乾、便秘、頭痛、 動悸など)	いらいら 決断困難 自責感 (申しわけない) 日内気分変動 (朝が悪く夜になるとラクになるなど)

表 うつ病の症状 (笠原嘉、1996)



## シルバー人材センターの 統合と広域化による 事業運営について



（社）鳥取市シルバー  
人材センター  
事務局長 村上寿一

### 二十万都市の誕生

平成十六年十一月一日、鳥取市と隣接する八町村との合併により新「鳥取市」が誕生した。新しく誕生した鳥取市は人口二十万人を超え、面積は七六五平方キロで県内面積の四分の一弱を占める山陰最大の中核都市として、大きく生まれ変わることになった。

### 合併後の鳥取市



### 十九の協定項目について審議

さて、鳥取市を中心とした鳥取県東部九市町村合併協議会が平成十四年十一月に設置され、その作業が詰めの段階を迎え審議の進むなか、シルバー人材センターの統合準備もようやく本格的に動き始めた。合併区域内には一法人センター（鳥取市シルバー）と四小規模センター（気高町・国府町・用瀬町・河原町シルバー）が設置されており、行政が合併すると一自治行政区内に一センターの原則に基づき、一つのシルバー人材センターとなる。そこで活動停止中の河原町シルバーを除き、平成十五年七月二十三日に合併区域内四市町シルバー人材センターの第一回合併委員会を開催し、そこでは委員会規定の制定、各センターの現状と今後の進め方等について協議した。

第二回委員会では基本的な十九の協定項目について審議が進められ、基本方針が決定された。第三回委員会では、新たに（社）智頭町シルバーの加入について承認し、五市町による合併委員会に組織を変更した。

しかし、その後、智頭町の合併が不調となり、再度、四市町シルバーの委員会に戻して、七回にも及ぶ委員会を開催してきたが、調印間近に用瀬町シルバーから突然の合併委員会からの離脱表明がある等、紆余曲折したシルバーの統合も、平成十六年六月十日各理事長等列席のもと、検討してきた統合の協定書並

びに契約書に調印がなされ、平成十六年十一月一日から新生・（社）鳥取市シルバー人材センターとして始動した。

### 広域化による効率的な 事業運営について

統合後のシルバー人材センターのあり方については、従来のセンターを支所として残して機能を分担するか、また、職員についてはどうするのかという問題が生じた。これらはいずれも先送りするわけにはいかない。そこで、統合後の新体制をどうするのか、職員の業務内容や受注就業業務全般の方針、経理関係全般について等、十項目について検討してきた。その結果、従来の職員は引き継ぐが、支所としては残さず連絡所として存続させ、受注及び就業調整と襖や障子の張替え・庭木の剪定等、日常的なシルバーの仕事に留め、極力、鳥取市シルバーで行うよう効率化に向けて調整を図った。

### 合併後の課題

合併後は、従来の、町シルバー会員がそのまま鳥取市シルバー会員と移行しない傾向がみられたが、反面、シルバー事業未実施であった町村からは、最近になり少しずつシルバー会員の申し込みがあり、現在六百五十人と約百人の会員が増加してきたところである。

市広報・チラシ等を用いてシルバー会員への呼びかけを行った効果もあると考えられるが、併せて就業開拓も進めて、シルバー会員へ就業提供の充実を図ることが会員の増加につながることを考えている。

当面の課題としては、鳥取市は広範囲のため如何にしてシルバー事業を市内全域に浸透させていくのかである。そのため、将来的には連絡所の地域ブロック別配置と機能強化を図り、周辺地域のシルバー事業のニーズに对应えられることを検討しなければと考えている。

# シルバー人材センターの紹介

## (社)南部広域シルバー人材センター

事務局長 田子 貢

### センターの概要

当センターは県下では二つの広域シルバーのうちの一つで西伯・会見・岸本の三町広域でしたが町合併の枠組みがささやかれ出してからその合併の仕方によっては広域でなくなるかもという危機感がありました。結果的には西伯と会見、岸本と溝口となり是非溝口

町も南部広域に入っていたかどうか関係町を回り町長さんがたに理解をいただくようお願いをしてまいりました。

結果、町合併により南部町と伯耆町の広域になり母体人口二万五千人となりました。

### 広域の特徴

旧四町にそれぞれ四つの本所・支所を設置しており所長がいます。

それぞれの職員は会員の顔が見えることが大切で会員の能力に応じた適正な仕事の配置、その町から補助金をもらっているの所以对しての責任、実績でお返しをする、支所ごとの競争など良い面があります。支所長は業務に対して裁量と責任があり、また職員も一生懸命になります。

### 業務の特徴

会見・岸本・溝口にまたがり県立「とっとり花回廊」が平成十二年四月開設以来就業についており現在四十名が就労に励んでいます。西伯には工業団地の自動車部品会社ほか六



社に約六十人が就労しております。

最近では農業の手伝いがあり農業者が会員で草刈り草取り農作業等手馴れた作業で能率が上がり天候に左右される農作業は喜ばれます。

また運動施設管理業者の作業補助に松江市にも出かけたりしており会員の仕事振りが認められていると思っております。

### 安全就業推進

当シルバー人材センターでは平成十四年に安全就業で全国表彰を受けましたが翌年五月十五日にオートバイに乗った七十二歳の女性会員が横道から国道に出がしらに国道を走っ

ていた乗用車と衝突し意識不明の状態。現在も寝たきりの状態です。  
 シルバー人材センターは雇用関係にないので安全就業の徹底が困難で、いつ何が起きるのか、わかりません。

### 会員の福利厚生

会員の親睦と団体としての意識の高揚などのために、正月のゆったり旅行（出雲大社と湯の川温泉百三十名参加）、ふれあいの集い（健康について医師による講演七十名参加）、グランド・ゴルフ大会（五十名参加）など毎年行っています。

平成十五年度実績は会員数五百名、配分金一七九、七〇七千円、契約金額二一四、九六二千円でした。

## （社）倉吉市シルバー人材センター

事務局長 中林 正樹

### シルバーで知恵の環人の和 社会の環！

一昨年の六月に事務局長に就任した当時の私のセンター事業に対する認識は、高齢者が豊かな知識と経験を活かした「生きがい対策」程度のものでありましたが、県連合会の会合で、米子広域センターの宇野理事長（当時、事務局長）が、例え話として、「手に水を受

けた時に指の隙間から水がこぼれる」が、この水がこぼれる部分をセンターがどう受け止めて、センター活動に結びつけるかを説かれました。このことが、私のセンター事業に対する認識を大きく変え今日に至っております。

このため、会員拡大と、技術・技能・事務管理・管理・軽作業・サービスなどの職群に対する受注の拡大を図るため、先般、本センターで「あなたへのお手紙」と題して啓発用パンフレットを作成しましたが、このパンフレットは、「事務局」や「就業機会創出員」だけが活用するのではなく、初めての試みとして、全会員の方に配布することにより、会員目々が地域の方々

に対し、会員の拡大や仕事の受注拡大の一助となれば幸いですと思っております。

また、以前から、市社会福祉協議会で葬儀用の祭壇貸付を行っています。準備を行う町内会が人手不足により借りることができないとの声を聞き、昨年十一月から希望された場合は、本センター



啓発用パンフレット

が申込者宅に祭壇を運搬し、組立と片付けを行っております。さらに、独自事業で、「竹炭・竹酢液・EMぼかし」の製造・販売を行っています。更に多くの会員の方に携わっていただきたく、SP講習会の受講者に期待してるところです。

このように、地域の特徴を生かしたセンターづくりのためには、「シルバーで・知恵の環・人の和・社会の環」を基に、「共に働く」高齢者のための幅広い支援機能を備え、地域の要請に応えられるワンストップサービスセンターとしての役割を担うことであると日々考えているところです。



観光ガイド班の案内風景

# 平成16年度鳥取県内シルバー人材センター統合・広域化の動き

(平成17年1月1日現在)

旧シルバー名称	新シルバー名称	合併時期	合併内容
(社)鳥取市シルバー人材センター	(社)鳥取市シルバー人材センター	平成16年11月1日	16.11.1 9市町村の合併により新鳥取市が誕生。区域内の国府町・気高町シルバーが鳥取市シルバーに編入。
国府町シルバー人材センター			
気高町シルバー人材センター			
(社)米子広域シルバー人材センター	(社)米子広域シルバー人材センター	平成17年4月1日	17.3.31 米子市と淀江町が合併予定により、淀江町シルバーが米子広域シルバーへ編入予定。
淀江町シルバー人材センター			
(社)南部広域シルバー人材センター	(社)南部広域シルバー人材センター	平成16年8月1日	17.1.1 溝口町・岸本町が合併して伯耆町が誕生。合併前に溝口町シルバーが南部広域シルバーへ編入。
溝口町シルバー人材センター			
(社)湯梨浜広域シルバー人材センター	(社)湯梨浜町シルバー人材センター ・16.4.1 国庫補助団体 ・16.10.1 広域不該当	平成16年10月1日	16.10.1 東郷町・羽合町・泊村が合併して湯梨浜町が誕生。泊村もシルバー事業対象地域となる。
東伯町シルバー人材センター	(社)琴浦町シルバー人材センター ・16.9.1より社団法人	平成16年9月1日	16.9.1 東伯町・赤碕町の合併により琴浦町が誕生。両町シルバーが新設統合。
赤碕町シルバー人材センター			
北条町シルバー人材センター	(社)北条大栄広域シルバー人材センター ・17.1.1より社団法人 ・17年9月迄は2町で運営のため広域扱い	平成17年1月1日	17.10.1 北条町・大栄町が合併して北栄町が誕生予定。町の合併前に両町シルバーが新設統合。
大栄町シルバー人材センター			
大山町高齢者能力活用人材センター	(社)大山町シルバー能力活用人材センター ・17.4.1 社団法人に向けて申請準備中	平成17年4月1日	17.3.28 大山町・名和町・中山町が合併して大山町が誕生予定。3町のシルバーが新設統合予定。
名和町シルバー人材センター			
中山町シルバー人材センター			
郡家町シルバー人材センター	未定 (八頭町シルバー)	平成17年3月31日	17.3.31 郡家町・船岡町・八東町が合併予定。船岡町・八東町もシルバー事業対象地域となる。

会員の広場

これからもシルバー  
人材センターと共に



稲村 加奈江

（鳥取市シルバー人材センター）

シルバー人材センターのマークを全身に貼  
り染めて、生き生き楽しく自他共に、満足の  
人生をノと心に決めてこの毎日ノこれ程尊く  
素晴らしく、そして有り難い事って他には無  
いと大確信の現在の私。

会員の一人である事の自覚でのお仕事、支  
援が生命が社会貢献、ボランティア等々へも  
共存、共栄、共助と連動してやりがい生きが  
い最高です。この実感は感謝と感動に私をよ  
りすばらしい人生への彩りを増している様に  
も思っています。

御本人とそのかわりの全ての方々、諸事  
への御満足、安心安全御幸福等々を、適材適  
所で全心に受容し乍ら、自らの全能が何時  
でもどこでも誰にでも、慈しみかわらせて

頂ける価値ある仕事、支援です。この充実感  
は人材センターならではと思っています。

その為にも諸々を全うする事への日々の研  
鑽は生涯学習であり永遠の生きている私の大  
きな課題です。

年齢、環境、生き様の多様性に現状のきび  
しさは多く有りますが、一は十にと転換した  
ら楽観主義で諸事判断を価値的に思考してゆ  
けば、おのずとふくいくとした知恵と云える  
かどうか表現しがたいけれど、自他共に全て  
の歓喜に変わり、今日も本当に悔いなく無事  
故でいい一日であったと感謝し精いっぱい  
あり続けてゆきます。ありがとうございます  
た。

仕事と健康



橋谷 獲 男

（南部広域シルバー人材センター  
溝口支所）

部仕上げるようになるには、五年十年の修業  
が必要です。それでも私達のグループは、和  
気あいあい毎日仕事に取り組んでおります。

私は当年七十三才ですが、見た目には六十  
代前半の歳に見られます（？）それは食生活  
と運動はもちろんの事ですが、二十年來私な  
りの健康法があります。その方法とは東洋医  
学から来た「手のひらもみ」です。

手のひらと指先は人体の縮図といわれるく  
らい、全身の器官の「ツボ」「経路」が集中  
していますから「反射ゾーン」ともいわれま  
す。手のひらは単にもむだけで気持ちがいい  
ことは、皆さんも経験しているでしょう。も  
む時には気持ちのいい「圧痛」を感じるくら  
いに行うのが基本です。親指で押す、親指と  
人差し指で挟んでもむ、四本の指でもみほぐ  
す、両手のひらを合わせて熱くなるまでこす  
る、時間の目安は三分から五分、テレビを見  
ながら新聞を見ながら暇な時に行い、毎日根  
気よく続けることが大切です。

人によっては歩けないほど腰の激痛が、即  
座に軽快した人もいました。

病院での治療はもちろん必要ですが、この  
方法によって肩こり、偏頭痛、耳鳴り、高血  
圧、便秘等にも同様の効果があります。最近



では色々な健康雑誌も手のひらこすり、足の指もみ、足の裏たたき、耳たぶもみ、ニンニクミソ等々、話題になっていきますから実行して見て下さい。

それではシルバーの皆さん、身の健康、心の健康、経済の健康、この三つの健康がそろって本当の健康です。皆様の長寿を祈念いたします。百七才まで芸術界で活躍された長老の言葉、

七十八才たれ小僧百になったら  
これからこれから



## 講習会に参加して

### パソコン講習初級を受講して

(境港会場)



境港市

角 紀子

かねてから受講を希望しながらも、中々その機会に恵まれなかった私であったが、今回願いが適った。

一大決心で会場に赴く。

決められた席について周りを眺めると、男女年配色とりどり。私の隣には若いお母さんがすわられた。

私達は、準備万端整えられたところに体を運ぶだけだ。もったいないと感じつつ、毎朝の目覚めは楽しく肩こりなど思いつひまがなかった。

物事が分かるってことが、こんなに楽しく嬉しいなんて久しぶりの快感である。活力の湧くおもいだった。

実は私はパソコンを持ちながら、カタカナ語の多さ、機能の複雑さ、それにもましてマ

ウスがままならず投げ出しているところだった。

今回の受講は甘えから脱却するいい機会をえたわけである。

講師の先生は、おだやかな説明で押しつけがましさがあった。そして、アシスタントの方々の目配り気配りの良さは格別。

「今日のことは今日覚えて……遠慮なく。」とご挨拶いただいただけに安心して習うことが出来た。

休憩時に交わす笑顔も、短い会話も、共に学ぶ友として楽しい五日間だった。感謝で一杯である。この力が一人でも実益に生かされたらこの上ない喜びだ。文章入力なら自信もてそう。

ねむっている機械を起こそう。

### ヘルパー養成講習に参加して

(鳥取会場)



鳥取市

徳安 紀道

これからは老々介護が必要と思ひ、受講を申し込み、幸い三級→二級と受講し、おかげ

さまで二級の資格を習得しました。

シルバーとして生活・介護援助を受ける側、ヘルパーとして援助する側の両面から学習することができ有意義でした。

人生八十年時代となり要介護高齢者が増加し、少子化もあって三人に一人は六十五歳以上の超高齢化社会になろうとしています。

福祉は、経済的救済から生活障害の支援へ、家庭介護から社会介護へ（在宅重視の自立支援）、行政の措置から民間業者との契約に、利用者がサービスを選択する（利用者本位）に変化しました。

来年は介護保険が見直され、ヘルパーは益々重視され、専門職としての高い知識と技術が求められています。

学んで痛感したことは、ヘルパー業務の間の広さと奥行きの深さでした。

二級資格は習得しましたが、スタートラインに立った気持ちです。

ホームヘルパーは、生活の場（自宅）で、一対一、人をヘルプする専門職です。

一番難しく最も重要なことは、人と人との待遇です。

「十人十色」色々な人・生活に出会います。一人ひとりの価値観や生き方、暮らし方を

理解し受け入れて、相手に安心を与え、信頼を得るためには、自己変革（慈悲の心と感性）も求められる大変な仕事であります。

習得した知識・技術をシルバー人材センター等で役立てながら研鑽し成長できればと思います。

担当の岡田さん始め関係者の方々に感謝申しあげます。

共に学びお別れ会までした二十人の仲間、有難うございました。

## 植栽管理講習に参加して



米子市

東 中 信 正

(米子会場)

十年後の二〇一四年には、人口の四分一が六十五歳以上の高齢者という世界一の「高齢大国」になるといいます。私も高齢者の一人になっっている。

社会全体の高齢化は、年金や医療など社会保障制度を直撃し、税、社会保険料の負担が増え、年金、医療の給付が減るといふかたが我々の生活に影響することになる。

また、人生が長くなるということは、短い人生のときは無用であった心配をしなければならなくなる。少なくとも年金がもらえる近くの年齢までは、仕事をしなければならぬとか、高齢になるに従って増える病気や介護といったリスクの対応もより多くなる。

皆が願うのは、ただ長生きするだけでなく健康で元気な高齢者でありたいということだと思ふ。

私自身は健康であるだけでなく何時までも元気で働き続けたいと願っている。やり甲斐のある仕事をするのが一番の健康方法と思っているからである。そういう思いもあって、今回「植栽管理講習」を受講しました。

この講習は、高齢者にとっても大変向いていると思ふ。適度に体を動かし、松の剪定は指先を動かすので脳を刺激し健康維持にもなると思ふ。また、竹垣を作って皆で写真を撮ったときには十分に満足感を味わうことが出来、自分も家の庭に作ってみたくなった。

その反面、剪定といっても教科書に載っている剪定方法と同じ木は現実には一本もなく、また全ての木々は違うものであるから技術の習得は難しく経験を要するものだとあらためて痛感した。

この講習を契機に出来るだけ植栽のチャンスをとらえて経験を積み重ね技術を向上させ、能力ある働ける高齢者になれるよう努めたい。今後、高齢化、少子化が進むにつれて働く意志と能力に富んだ高齢者がますます必要とされる時代になると考えられる。

シルバー人材センターが、いきいきと豊かな高齢社会の構築に寄与され発展されることを願うと共に私自身もシルバー人材センターから求められる人材になれるよう努力していきたい。

## オフィスクリーニング

### 講習会に参加して

(米子会場)



米子市

渡辺 真珠美

実は私、お掃除は大の苦手なのです。

この仕事で就職しようなんて思ってもいませんでした。が、シルバー人材センターに入会して知り合った会員二名の方の話を聞いて、又、「よかったよ、就職しなくても、講習は受けとくといいよ」とすすめられ、その気

になりました。

開講式の後、テキストにそって、講義を受け、洗剤の使用法や働く職場によって違う、例えばモップの色等、注意しなければいけない事等、注意点を教わりました。二日目からの実技、これは基本作業から教えていただきました。箒の持ち方、モップの絞り方、バキューム(掃除機)等、日頃、家では何も考える事なくしていた事なので、今更ながら気が付いたと云う様な、本当に基本の基本から教えていただきました。窓ガラス等は、そこにガラスが入っていないかの様にすき通って、きれいになり、「こんなにきれいになるんだな」と、心の曇りもいっしょに磨けそうな気分になりました。二度とは経験できそうにもないのは、ポリシャーです。思わず、テレビコマトシヤル(ポリシャーに振り廻されている、風邪をひいた掃除婦さんの)を思い出しました。人事ではありませんでした。それでも、床がピカピカになったのを見て嬉しかったです。

お掃除が苦手だから、それでも少しは家をきれいにしたいと思ったのがきっかけで、背中を押して下さったシルバー会員の方が居て、受講の申込みをし、又、受講する事ができて、

本当によかったと思います。シルバー人材センター連合会の方、講師、助手の方、いっしょに受講された方、皆様にお世話になりました。どうもありがとうございました。まだこの仕事で就職する自信のない私ですが、先ず家のお掃除から教えていただいた事を活かしていきたいと思っています。



# (社)鳥取県シルバー人材センター連合会正会員

(平成17年1月1日現在)

名 称	〒	所 在 地	電 話	FAX	代表者
(社)鳥取市シルバー人材センター	680-0823	鳥取市幸町73	0857-22-0050	0857-22-0051	歳岡輝巳
(社)米子広域シルバー人材センター	683-0811	米子市錦町1-110	0859-32-2633	0859-32-5823	宇野治巳
(社)倉吉市シルバー人材センター	682-0816	倉吉市駄経寺町2-8-1	0858-22-0870	0858-23-6101	野島 完
(社)境港市シルバー人材センター	684-0034	境港市昭和町11-17	0859-47-4540	0859-47-4541	足立郁馬
(社)南部広域シルバー人材センター	683-0351	西伯郡南部町法勝寺170	0859-66-4011	0859-66-5330	中川正昭
(社)智頭町シルバー人材センター	689-1402	八頭郡智頭町智頭1795-1	0858-75-0170	0858-75-2366	石谷文一
(社)岩美町シルバー人材センター	681-0003	岩美郡岩美町浦富1041-1	0857-72-2511	0857-72-2512	太田弘道
(社)湯梨浜町シルバー人材センター	682-0712	東伯郡湯梨浜町上浅津123-2	0858-35-4130	0858-35-4130	磯江末夫
(社)琴浦町シルバー人材センター	689-2352	東伯郡琴浦町浦安152-3	0858-52-1001	0858-52-1001	足立慎夫
(社)北条大栄広域シルバー人材センター	689-2103	東伯郡北条町田井46-2	0858-36-4527	0858-36-5056	岸田忠良
淀江町シルバー人材センター	689-3402	西伯郡淀江町淀江676-2	0859-56-6200	0859-56-6205	高野邦親
中山町シルバー人材センター	689-3111	西伯郡中山町赤坂764	0858-49-3012	0858-49-3013	明里好弘
郡家町シルバー人材センター	680-0463	八頭郡郡家町宮谷254-1	0858-72-0021	0858-72-2793	村田敏雄
江府町シルバー人材センター	689-4403	日野郡江府町久連7-1	0859-75-2942	0859-75-3900	仲嶋勝利
日野町シルバー人材センター	689-5131	日野郡日野町黒坂1247-1	0859-74-0870	0859-74-0338	副理事長 牧 智也
日南町シルバー人材センター	689-5211	日野郡日南町生山357	0859-82-0223	0859-82-1027	青戸建一郎
名和町シルバー人材センター	689-3211	西伯郡名和町御来屋467	0859-54-6077	0859-54-6077	林原彦一
三朝町シルバー人材センター	682-0121	東伯郡三朝町大瀬999-2	0858-43-1111	0858-43-0647	西村武津美
大山町高齢者能力活用人材センター	689-3332	西伯郡大山町末長269-1	0859-53-4787	0859-53-4787	提島成一

お 願 い

・投稿募集

俳句、短歌、川柳、会員の声

俳句、短歌、川柳は二句(首)まで

投稿ご希望の方は左記までご連絡をお願いいたします。

米子市角盤町一丁目七六

(社)鳥取県シルバー人材センター連合会

郵便番号 六八三〇八二二

電話番号 (〇八五九) 二七一五三二

FAX番号 (〇八五九) 二七一五三七

あ と が き

今回も、関係各位の御協力のお陰で第十二号が発行できました。ご寄稿いただいた皆様に心から御礼申し上げます。これからも紙面の充実に努めてまいりますので、一層の御協力をご愛読いただきますようお願い申し上げます。

会 報 鳥 取 第12号  
平成17年1月1日 発行

発 行：社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会

所在地：〒683-0812 鳥取県米子市角盤町1丁目76番地

電 話：0859-37-2531

FAX：0859-37-2537

印 刷：(有)ニシキ印刷 鳥取県米子市灘町3-150

電 話：0859-32-2250